国立病院機構熊本医療センター

No.224

くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER　KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸１番５号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

平成27年度 第2回
開放型病院連絡会開催が迫りました

平成27年度第２回（通算40回）国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、来る２月27日（土）午後６時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催致します。

今回は、症例呈示、地域医療連携室からのお知らせ、紹介予約センターからのお知らせに続き、厚生労働省医政局総務課　保健医療技術調整官　町田宗仁先生の特別講演を行います。

先生方をはじめ、看護部門、メディカルスタッフ部門、ＭＳＷ、事務職員など多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、新規登録医の受付も当日、会場でできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付けください。

（管理課長　清水就人）

第40回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日 時 ： 平成28年２月27日（土）午後６時30分～８時30分
場 所 ： 国立病院機構熊本医療センター（２階　地域医療研修センター）

－ 内　　容 －

（１）開放型病院連絡会総会

１．症例呈示

①「糖尿病地域医療連携及び糖尿病合併症検査外来の推進について」
糖尿病・内分泌内科部長　西川武志

②「大腸がんの外科治療」
外科部長　宮成信友

２．地域医療連携室からのお知らせ　地域医療連携室長　清川哲志
３．紹介予約センターからのお知らせ　地域医療連携副室長　大塚忠弘

（２）特別講演

「特定機能病院の事例から学ぶ医療安全」
厚生労働省医政局総務課　保健医療技術調整官　町田宗仁　先生

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課　電話　096-353-6501内線2311（清水・今村）

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1．良質で安全な医療の提供
2．政策医療の推進
3．医療連携と救急医療の推進
4．教育・研修・臨床研究の推進
5．国際医療協力の推進
6．健全経営

患者様の権利

1．良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2．ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3．病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4．自分の診療記録の開示を求める権利があります
5．セカンド・オピニオンを求める権利があります
6．個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

VOICE 登録医の声

「病診連携感謝の声」

谷口歯科医院
院長　谷口　守昭

熊本市清水本町の万石バス停前で歯科医院を開業しております谷口と申します。早いもので、今年で開院25周年を迎えます。現在、２年前に国立熊本医療センターでの卒後研修を修了した若い美人女医さん２名と一緒に日々診療に励んでいます。今の職場は私以外全員女性という恵まれた環境で、毎日楽しく診療しております。

さて、国立熊本医療センターには、当院開業当初から、特に当時の歯科部長だった故児玉國昭先生には大変お世話になりました。当時、「有病者歯科医療研究会」（現在は「医科歯科連携研究会」）という勉強会が月に一度国立病院の研修室であり、児玉先生とは親しくお付き合いさせていただきました。また患者さんも、私の手に負えない、例えば歯科心身症の患者さん等も快く引受けて頂き、大変助かりました。国立病院に共同指導に行った時、大きな声で「国立病院の麻酔は痛いよ。」と冗談を言いながら埋伏智歯の抜歯をされていた姿を今も懐かしく思い出されます。

現在は、歯科部長が中島健先生に代わりましたが、実は中島先生は私の大学の同級生で、その御縁もあり、ひき続き国立熊本医療センターにはお世話になっています。例を挙げれば、５年ほど前、今歯科では非常に問題になっているBRONJ（BP製剤関連顎骨壊死、現在はMRONJ）の患者さんを紹介したところ、全麻での腐骨除去手術にて劇的に治った症例は大変印象的でした。当時まさか自分の診療所でBRONJの患者さんが出るとは思っていませんでしたが、初診時よりゾメタの注射をしていることを聞いていたので、抜歯を含め外科処置は一切しなかったにもかかわらず、義歯による褥瘡性潰瘍から一気に腐骨が広がり、なすすべがなかったので、大変助かりました。患者さんからも非常に感謝されました。更に、外傷による下顎骨骨折の患者さんの例では、オトガイ部と両側関節突起部の同時骨折症例で私自身非常に驚きましたが、中島先生に手術していただき、その患者さんは現在も当院にメンテナンスで通院されていますが、全く症状無く良好に経過しています。この患者さんも大変感謝されています。

このように国立熊本医療センターには日常診療にて大変お世話になっていますが、実は私は個人的にもお世話になったことがあります。それは、十数年前に熊本市内でも雪が積もったことがあり、その日の朝通勤途中に路上で滑って転倒し、右手の橈骨骨折をしたことがあります。その日は私のような骨折患者が多く、国立病院の整形外科では何人も手術待ちをされていましたが、その中に私も入れてもらい、当時の整形外科部長だった野村先生に創外固定の手術を執刀していただきました。完治するまで４ヶ月ほどかかりましたが、お陰様で今では全く後遺症も残らず、仕事に復帰しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

最後に、国立病院熊本医療センターが我々開業医の拠点病院としてますます発展することを願って止みません。今後ともよろしくお願い申し上げます。

当院ホームページで Facebook 始めました

当院の活動を幅広くお知らせすると共に、より身近に感じていただくためのツールとして、Facebookを始めました。

大きなイベントから日常の風景まで、とりとめのない写真と文章で紹介しています。

当院にはまだまだたくさんの「いいね！」が埋まっています。是非それを発掘し、多くの方に紹介していきたいと思います！

よろしければ、是非のぞいてみて下さい。

（国立病院機構熊本医療センター管理課）

職場紹介

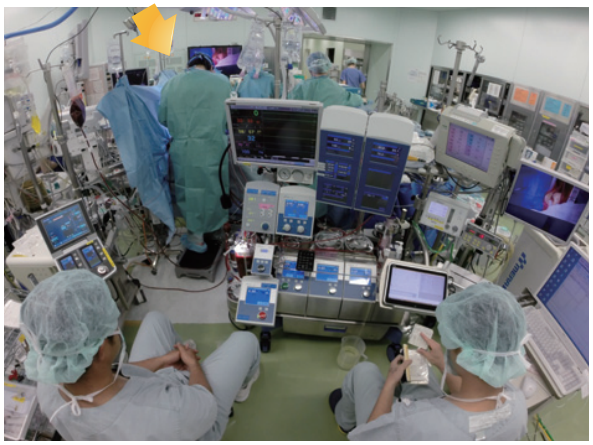
臨床工学技士

臨床工学技士は、ME機器室や手術室における医療機器の管理および保守点検、血液浄化、人工心肺やPCPSなどの体外循環、高気圧酸素治療などの業務を現在８名で行っています。

全ての業務で24時間365日対応できるよう体制を整えていましたが、昨年度から当直業務も開始しました。そのため、緊急時により迅速に対応できるようになったのと同時に、毎日のように24時間CHDFが稼働しているICUでは病棟スタッフの安心にもつながっているものと思われます。

従来からRSTによる人工呼吸器ラウンドに参加していましたが、今年からRST活動日以外にもラウンドを実施しています。また最近ではバッグ・バルブ・マスクの中央管理も開始し、医療安全に貢献できるよう努めています。　（臨床工学技士長　田代博崇）

心臓血管外科の岡本先生の背中です



心臓血管外科の開心術では、岡本先生の背中を見つめながら人工心肺装置を操作しています。まるでコックピットのように機器が並んでいます。

ICUでCHDFの準備をしています。

血液浄化センターでは看護師と連携し、透析を行っています。

名物職員 紹介します

知る人ぞ知る、北川 哉 君です

小学校の運動会閉会式で「万歳三唱」する副会長の北川さん

北川君は彼のお子さんが通っている城西小学校の PTA 副会長を務めています。そんな北川君には当然のことながら小学校の行事予定情報が早く知らされるため、同じく城西小学校にお子さんを通わせている当院スタッフの保護者の方々から、「次の授業参観はいつですか?」といった質問が多く寄せられるそうです。

他にも城西小野球部ではコーチとしても活動していて、練習や試合を通じて子供達と一緒に汗を流しています。（右写真）

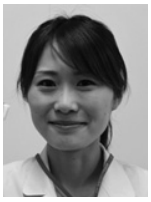
また院内の野球チーム『Lactecs』にも所属していて、プレーだけでなくグラウンドの確保など裏方の仕事もこなしており、なくてはならない存在だそうです。

【臨床工学技士長　田代博崇】

2016 診療科紹介(90)

歯科口腔外科

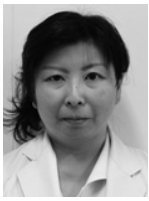
部長
中島 健（なかしま　たけし）
口腔外科、一般歯科
日本口腔外科学会専門医・評議員
日本有病者歯科医療学会評議員
日本顎顔面外傷学会評議員
日本摂食嚥下リハビリ学会認定士
歯科医師臨床研修指導医
九州口腔衛生学会幹事



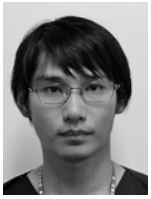
歯科医師
森 久美子（もり　くみこ）
口腔外科、一般歯科
日本口腔外科学会認定医
AHA-BLSインストラクター

歯科医師
谷口 広佑（たにぐち　こうすけ）
口腔外科、一般歯科
日本口腔外科学会認定医

歯科医師
中川 文雄（なかがわ　ふみお）
歯科麻酔、一般歯科、口腔外科
日本歯科麻酔学会認定医



歯科医師
片岡 奈々美（かたおか　ななみ）
口腔外科、一般歯科
日本口腔衛生学会認定医
インフェクションコントロールドクター



歯科医師
内藤 久貴（ないとう　ひさき）
口腔外科、一般歯科
日本口腔外科学会認定医

診療の内容と特色

当科では、県内の歯科医院や他科医院と連携して、親知らずなどの抜歯や口腔や顎骨の腫瘍、嚢胞性疾患、粘膜疾患の診断や治療、顎骨の炎症、骨折などの外傷の治療など口腔外科疾患を中心に多数の紹介をいただいています。そのほか、近年、増加傾向にある基礎疾患を持っている患者さんの口腔外科的治療も院内各科や主治医の先生と連絡を密にとりながら、細心の注意を払いつつ行っています。

病床数550床の当院では入院患者さんの口腔に関する訴えに対応すること、さらに口腔機能を回復させ、栄養状態を改善させることが重要だと考え治療を行っています。病棟では、歯科医師、歯科衛生士の指導による口腔内の清掃と誤嚥性肺炎を予防する口腔ケアを実施しております。さらに摂食嚥下チームの一員として、嚥下内視鏡を用いた精密検査などの評価を行い、院内の各科や言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、看護師と連携をとり、入院患者さんの摂食・嚥下の一日も早い回復のために力を注いでいます。

院内からは、特に血液内科から化学療法、造血幹細胞移植患者の実施前に紹介をいただき、口内炎や発熱の減少につなげています。また、一般外科や心臓外科、泌尿器科、呼吸器内科、血液内科などからは、周術期の患者、化学療法や放射線治療の患者あるいは悪性腫瘍の転移治療に用いるBMA製剤投与前に当科へ歯科治療と定期的なメンテナンス目的とした患者さんの紹介も多く、周術期の合併症や口内炎、顎骨壊死の予防のために的確な診断とスピーディーで確実な処置を心がけています。

診療実績

当院は救命救急センター、開放型病院、地域医療支援病院と多くの指定を受けていますが、それに伴って当科の紹介患者は口腔外科疾患を中心に平成24年度731名、平成25年度872名、平成26年度966名と年々増加しております。初診患者は、平成24年度2266名、平成25年度2561名、平成26年度2439名で紹介率は39.6％でした。平成26年度は入院加療を必要とする患者も年間174名、そのうち全身麻酔での手術ケースが86件ありました。さらに、地域の歯科医院などへ紹介する逆紹介率も46.4％と増加しております。

入院の内訳をみると口腔腫瘍、顎骨嚢胞、顎骨の炎症、顎骨骨折、埋伏歯の抜歯、口腔出血、唾液腺疾患、有病者の口腔外科手術、障害者あるいは歯科恐怖症を持つ患者の全身麻酔下治療などがあります。

ご案内

外来診療は月曜から金曜の８：30～17：00、新患受付は８：15～11：00（急患は除く）、手術は月曜・水曜の午後に行い、他の曜日の午後は外来口腔外科手術と他診療科入院患者の歯科治療を行っております。

熊病の歴史

血液内科　第１話（全４話連載）

国立熊本病院血液内科の歴史は、1946年８月３日に熊本医科大学第２内科から、“日本の血液学の祖”といわれた小宮悦造教授（元熊本医科大学学長）が院長に就任された時から始まります。まず常勤医師（厚生技官）として、小宮院長の娘婿の長村重之先生（東京医大名誉教授）が赴任され、その後、熊本大学医学部第２内科から川越　寿先生（後の副院長）が赴任されました。この当時、国立病院では、結核患者が非常に多く、長村先生も川越先生も血液疾患よりも主に結核の診療に携わられたと思われます。後年、私は東京医大に進学し、長村先生の講義を受けましたが、血液疾患の他、結核の講義もなさっていました。

血液疾患の診療を当院で事実上開始されたのは、園田憲章先生（1949年）からと思われます。園田先生は、東京大学医学部のご出身で、紫藤忠博先生（1968年）、井芹喜久先生（1969年）とともに、血液内科の伝統を作られました。紫藤先生が思い出として記載されていますが、園田先生は、米国の血液学の教科書を読まれて指導され、最先端の血液診療を目指されておられました。残念ながら先生は、若くして血液疾患で亡くなられました。井芹先生は、若い医局員のためにご自宅で血液学の勉強会を主催されていました。私は、井芹先生とはご一緒に勤務することはありませんでしたが、学会などでお会いすることがあり、暖かく激励していただきとても嬉しかった思い出があります。

紫藤先生が医長になられましてからは、熊本大学第２内科の研修医は、こぞって紫藤先生のおられる国立病院での研修を希望したものです。私は希望したにもかかわらず、国立病院の研修は回ってきませんでした。1970－80年頃の話です。この頃は、紫藤先生のご指導のもと、熊本大学第２内科出身の多くの研修医やレジデントの先生方に血液学の教育が行われたと思います。紫藤先生と一緒の時代を過ごされた熊本大学第２内科出身の出来田耕介、鶴崎隆一郎、小篠武明、小島英俊、尾田正幸、本多邦雄、松岡昇、三嶋英一、白石民夫、前田和弘、木村圭志、中路丈夫、小野崇、大塚恵一、松村克己の各先生方は多かれ少なかれ血液疾患診療に従事されたと思います。昭和50年頃の内科は、専門医よりも今でいう総合内科的な内科を目指しており、あらゆる疾患を見ることが推奨されていました。

しかし、一方で徐々に内科自体の細分化が進みつつありました。昭和60年になり、蟻田　功院長が赴任されたときから、内科認定教育施設を獲得するため専門医を目指す必要が生じ、以後内科の専門分野への細分化が急激に図られました。血液専門医を目指して大学から国立にこられたのは佐藤昌彦（1980年）、眞田功（1987年）、塚本敦子（菊池恵楓園）の各先生方でした。

1989年、骨髄移植を熊本県で立ち上げるために、高月清熊本大学第２内科教授の命を受け、河野文夫が内科医長として赴任しました。このとき驚きましたのは、すでに紫藤先生は、移植をやるための簡易無菌室と骨髄移植のための器具を２セット用意されていたことです。この時の器具は、今も骨髄移植に使用されています。県内初の自己骨髄移植は熊本大学第２内科で施行されました（受持医　境健爾）が、同種骨髄移植は看護の面で問題があり熊本大学では行うことができませんでした。国立病院でも当初は反対もありましたが、紫藤、佐藤、眞田、塚本の諸先生の協力で、６人部屋の簡易無菌室の中に、ビニールで部屋を作り、その中にクリーンベッドを入れて、1991年２月21日に県内初の同種骨髄移植を開始することができました（受持医佐藤昌彦）。同年９月に完全無菌室１室が設置され、続いてクリーンベッド３台が購入されました。

（院長　河野文夫）

内　科　病　棟　回　診　風　景

内科診療は高度に専門分化された臓器学と同時に総合的な診断、治療学が必要である。内科スタッフは、分化と統合を目標に、より良い医療を求めて頑張っている。

回診者／紫藤・木村医長とそのスタッフ

参考文献：
創立40周年特別記念誌「国立熊本病院の活動とその将来」
（昭和60年12月１日発行）

平成２７年度 第２回
熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成27年度第２回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月15日（火）午後７時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より河野院長、片渕副院長、清川統括診療部長、北田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

河野院長、宮本会長からの挨拶の後、議事に入りました。まず中島部長から当院の歯科紹介率と逆紹介率の実績について、次いで、北田医長から当院の歯科救急医療について、再び、中島部長より歯科関係の今年度と来年度に行われる講演会・セミナーの紹介が報告されました。

最後に片渕副院長から、平成27年度第２回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が２月27日（土）午後６時30分から、当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。その他、今後の地域医療システムの話題等があり、当病院と熊本市歯科医師会とのさらなる連携を確認して閉会となりました。

連絡協議会の様子

（歯科口腔外科部長　中島　健）

平成27年度合同慰霊祭が行われました

12月15日（火）、平成27年度合同慰霊祭が地域医療研修センターで執り行われました。本年は、平成26年９月から平成27年８月までの１年間に当院でお亡くなりになられた患者様669柱が対象で、多くの病院職員の方々に参列を頂きました。

合同慰霊祭の様子

式典は午後２時30分から始まり、河野院長による追悼の辞では、「私共は、この厳粛なる事実を銘記し、医学の進展に遅れることなく日々研鑽を重ね、更なる医療の向上と安全確保に努める覚悟です。」との言葉がありました。

その後、お亡くなりになられた故人に哀悼の意を表し、式典に参列した職員全員による献花が粛々と行われ、式典は終了いたしました。

また、参列した職員だけでなく、式典終了後も病院職員が献花できるように午後４時30分まで祭壇はそのままとし、多くの職員の方々に献花を頂きました。

最後に、この合同慰霊祭に参列頂きました全ての職員の方々のご協力により、滞りなく終了できましたことに厚く御礼申し上げます。

（経営企画室長　石井竜男）

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承ります。

地域医療連携室直通電話　096-353-6693　月～金（祝日を除く）AM８：30～PM17：00

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

二の丸がんサロン
トーンチャイム Xmasコンサートが行なわれました

平成27年12月17日（木）に二の丸がんサロンの企画にてクリスマスコンサートが開催されました。

二の丸がんサロンは、がん経験者の方やご家族が気軽に語り合い分かち合う場であり、がん医療に関する意見交換や情報を得ることによって、がん経験者の方やご家族自身が困難に対処していく力を養う場、また誰かの役に立つ感覚を獲得していく場です。

二の丸がんサロンは、院内のスタッフの皆様方にご協力頂き学習会を開いたり、毎月テーマを決めて、当事者みなさんの語らいを特色としています。

12月は、「“二の丸がんサロン”を多くの方に知ってほしい」、「患者さん方へ癒しの時間を提供したい」とサロン参加者の方々の声で、前半の１時間を使って演奏ボランティア美齢重（ミレージュ）様によるトーンチャイムコンサートが開かれました。

トーンチャイムはアメリカで作られたリハビリ用の楽器で優しい音色が奏でられます。美齢重様は約10年前から病院や施設などで多岐にわたって演奏活動をされており、二の丸がんサロンで演奏頂くのも４度目となりました。たくさんのクリスマスソングを奏でて頂き、観覧された患者さんからも「見に来てよかった」とのお声を頂きました。また、サロン参加者のお一人からは、コンサートにお立ち寄りの皆さんへ、“１人１人がすばらしい日でありますように”と願いが込められた手作りのメッセージカードをお渡しされ、とても温かい心配りが感じられました。

二の丸がんサロンのがん種や病期はさまざまですが、それぞれを思いやり助け合われているがんサロンです。

毎月第１金曜日13：00～15：00に研修センター　研修室１で開催されております。自施設のみならず、他施設へかかられている方も参加可能で地域に開かれた交流の場です。参加ご希望の方がおられましたら、詳しくはがん相談支援センターまでお尋ね頂きますよう、お声かけお願い致します。

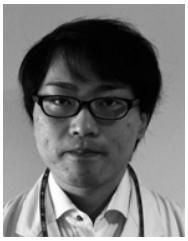
（がん相談支援センター（二の丸がんサロン事務局）
医療ソーシャルワーカー　木下良子）

クリスマスコンサートの様子

～二の丸がんサロン　世話人　石本恭子様より～

12月の“二の丸がんサロン”は、例年この時期に開催している、トーンチャイムコンサートで一年を締めくくりました。トーンチャイムグループ「美齢重」のみなさんの心地いい音色が診察に訪れた人々を和ませたに違いないと思います。みんなで、美齢重代表　永吉さんのご指導のもと、トーンチャイムで「きらきらぼし」を演奏したり、一緒に「トトロのさんぽ」を歌ったり、終始なごやかな雰囲気でした。

新任職員紹介



眼科
渡邉（わたなべ）　隆弘（たかひろ）

本年度から国立病院機構熊本医療センター眼科で勤務させて頂くこととなりました渡邉 隆弘と申します。

熊本大学を卒業後、熊本地域医療センター、熊本大学で研修させていただき、昨年度熊本大学眼科に入局いたしました。

大学ではなかなか一人の患者さんの経過を診ていくという機会がありませんでしたので、不安も大きいですが楽しみでもあります。

眼科医としてまだまだ未熟ではございますが、１日でも早く仕事を覚えて熊本市の眼科医療に少しでも貢献出来るように頑張っていきたいと思います。

これからよろしくお願いいたします。

医学シリーズ №224　心臓血管外科（No. 10）

最近のトピックス
大動脈弁狭窄症

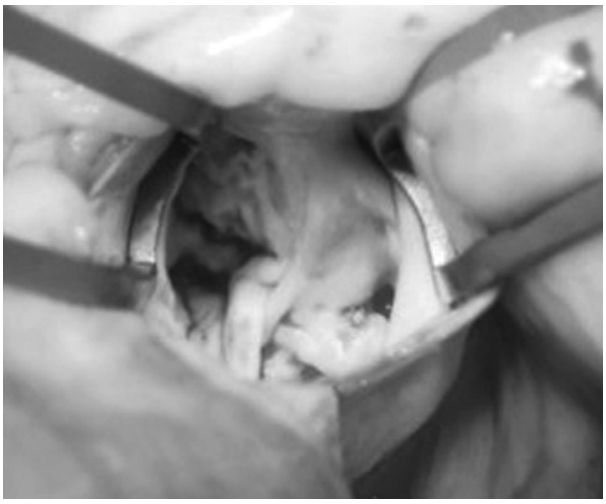
心臓血管外科部長
岡本　実

日本胸部外科学会が集計し公開しているデータでは、弁膜症手術件数は年々増加の傾向にあり、2008年では年間約17,000件の手術が行われています。その原因は高齢者の大動脈弁狭窄症や、僧帽弁変性疾患の増加が主体ですが、術後のQOLを考慮して早期に手術が行われるようになった点などが手術件数増加に影響していると考えられています。単弁疾患では大動脈弁が7050例と多く大動脈弁置換術が一般に行われています。使用された人工弁は生体弁が61％で機械弁が38％であり、年々生体弁の比率が増加しています。これは、手術を受ける患者さんの高齢化、新しい人工弁選択に関するガイドラインの影響と思われています。

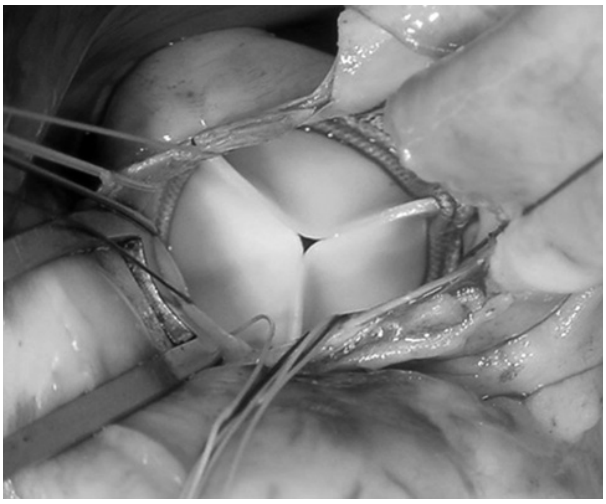
集計では全体の在院死亡は3.3％。この中で再手術例の在院死亡率は7.1％と高く、人工弁感染性心内膜炎などによる状態の悪い患者さんに対する再手術例が全体の成績を不良にしていると考えられています。

当院で施行された大動脈弁置換術は、平成23年から27年までの５年間で感染性心内膜炎をのぞく予定手術で大動脈弁閉鎖不全症は13.9％、大動脈弁狭窄症は86.1％と大動脈弁狭窄症手術症例がひじょうに多くなっています。合併手術も44.8％に施行され、三尖弁形成、僧帽弁形成術、さらに冠動脈バイパス術も施行されていました。

大動脈弁狭窄症の原因の多くは動脈硬化性であり、弁自体の石灰化のみならず大動脈の石灰化も合併しているため、手術の難易度が高く、さらに患者の高齢化と透析患者の症例が増加している点も問題となっています。開心術が不可能な患者に対してはバルーンカテーテルによる大動脈弁拡張術がおこなわれていますが効果は一過性でした。世界においては、バルーン治療以上の非侵襲的な治療として、ステントバルブを使用した経カテーテル的皮大動脈弁置換術（TAVR）が、フランスのルーアン大学のAlain Cribier教授により2002年に考案されました。以来、ヨーロッパ・北米を中心に、現在、世界で10万人以上の患者に行われています。この治療開始当初は合併症の率が高かったのですが年々成績が改善しています。報告で異なりますが、欧米で行われた治験や治療後調査の結果から、手技成功率は95％以上、術後30日間の死亡率は約５％程度まで改善しています。本邦でも2013年10月より、TAVRが保険償還となり、すでに約1200名（2015年３月現在）が治療を受け、術後30日死亡率１％前後と良好な成績となっています。現在はハイリスク症例など適応患者に制限があり、また透析患者は保険適応外となっていますが、大阪大学の治験では透析患者への成績は良好であることから、手術費用を考慮しつつ適応範囲が広がる可能性もありそうです。



大動脈弁（狭窄）



生体弁置換術後

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ100回

人工呼吸器アラームとナースコール連動ケーブルの試作

臨床工学技士　田代博崇

人工呼吸器は生命維持装置であり、トラブル発生時に対応を誤ると患者の生命に直結します。そのため一般病棟における人工呼吸器管理は、アラーム音が聞こえやすく、すぐに対応可能なスタッフステーションに近い病室が使用されています。しかし感染対策など隔離が必要となった場合、スタッフステーションから離れた病室を使用せざるを得なくなります。

当院でも過去に同様の症例が発生し、人工呼吸器のアラームをスタッフステーションへ知らせる方法として次の二案について実現可能か調査しました。

【案１】

人工呼吸器で発生したアラームを、病室にあるベッドサイドモニターで受け、スタッフステーションのセントラルモニターで知らせる。

【案２】

人工呼吸器で発生したアラームを、ナースコールを経由しスタッフステーションに知らせる。

二案についてそれぞれのメーカーに確認した結果は次の通りでした。

①人工呼吸器：当院で採用している人工呼吸器にはナースコール出力端子の設定があり、取扱説明書にも解説あり。出力端子に接続するコネクタも提供可能。ただしケーブルについては受信側機器の情報がないため、作成は受信側機器メーカーへ依頼するようにとの回答。

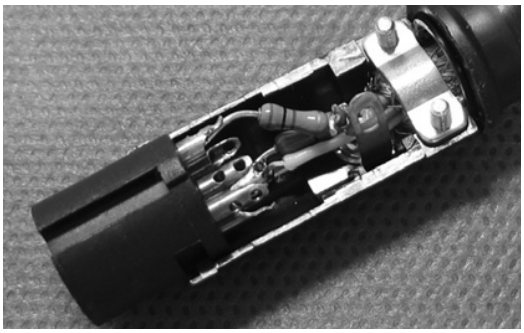
②生体情報モニター：集中治療室で使用している上位機種のモニターには、アラームはもちろん数値情報も取り込み可能なものもあり。しかし一般病棟で使用している下位機種のモニターでは他の機器との接続は不可能。

③ナースコール：当院のナースコールメーカーに、人工呼吸器の情報を元にケーブル作成を依頼。しかし製造物責任法（PL法）を理由に作成できないとの回答。

以上の結果から製品としてのケーブルを入手することは不可能であることが分かりました。

その後離床センサーをME機器室で管理するにあたり、その回路図を参考にケーブルの自作を思いつき、人工呼吸器のナースコール出力端子用コネクタとケーブル、ナースコール側コネクタをそれぞれ半田付け（図１）して連動ケーブル（図２）を試作しました。動作確認でも人工呼吸器のアラームに連動しスタッフステーション内のナースコールが鳴ることを確認できました。

本来であれば製品化されたものを導入した方が安心して使用できますが、本品の場合不可能であります。しかし試作品であっても呼気炭酸ガスモニターと併用することで安全性は高くなり、人工呼吸器関連の事故防止に有用であると考えます。



（図１）半田付けした人工呼吸器側のナースコール出力端子用コネクタ

（図２）連動ケーブルをナースコールハンドスイッチ、人工呼吸器へ接続したところ

研修医レポート

臨床研修医
高島（たかしま） 悟（さとる）

こんにちは、研修医２年目の高島悟と申します。

自己紹介をさせて頂きます。出身は熊本県合志市、高校＋１年間まで熊本市内に在住しておりましたが、大学は福岡にある私立大学を卒業しました。研修病院としては熊本大学附属病院にマッチし、一年目を熊大病院、二年目に当院での研修をさせて頂くこととなり現在に至ります。

研修医１年目として、熊大病院では一般内科（循環器科、呼吸器内科、消化器内科、代謝内分泌科）、産婦人科、小児科、麻酔科、皮膚科と幅広い診療科での研修生活を送ることが出来ました。またご存知のように、大学病院では特殊な疾患や稀な疾患、また重症度の高い手術症例など高いレベルの医療を経験しました。しかし、common diseaseや一般外来の経験、救急症例に関して大学病院では経験する機会が中々ありませんでした。

研修医２年目として、昨年４月より国立病院機構熊本医療センターでの研修がスタート。まず大学病院研修と大きく異なる点は、救急外来での当直を行うことでした。救命救急科であるＤｒ以外の一般内科、外科のＤｒがチームとなり救急外来での当直を行っていることに驚きました。実際に当直を行ってみると、一次救急から三次救急まで幅広く救急疾患を経験すること、また内科的・外科的考え方や治療法まで学ぶことが出来ております。

各科研修では、４月に放射線科、５・６・７月に救急救命部、８月に脳神経外科、９月に皮膚科、11・12月に耳鼻科を研修させて頂きました。どの科を研修するにおいても、初めて経験する疾患や今まで知らなかった知識、手技に関してまで充実した研修を送らせて頂いております。

現在は血液内科、今後は腎臓内科と小児科を研修させて頂く予定です。将来のため、少しでも多くの経験と知識を学びたいと考えております。今後とも変わらぬご指導のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医
森永（もりなが） 剛司（たけし）

こんにちは。研修医の森永剛司と申します。

広島大学を卒業し、昨年の４月より国立熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。大学にて熊本を６年間離れており、故郷が恋しく、初期研修から熊本の地へ帰ってきました。

初期研修１年目は熊本大学病院にて研修をし、２年目を当院にて研修させていただいているため、最初はカルテや遭遇する疾患など大きな違いに戸惑いを感じましたが、多くの先生方並びにスタッフの方々・同期や後輩の助けがあり、当院での仕事に慣れることができました。

大学病院では消化器外科・内科、病理部、呼吸器内科、産婦人科、小児科、循環器内科、神経内科にて研修をさせて頂きました。それを踏まえた上で当院での研修先を決定しましたが、どの科での研修も中身が濃く、充実した時間を過ごすことができました。静脈ルートや動脈採血といった基本的な手技が身についただけでなく、身体所見から必要な検査を自らオーダーし診断をつけ、治療方針を決定するという総合力を鍛えることができました。また、重傷な症例を目の当たりにするたびに自分の無力さを感じましたが、多くの経験を積むことができ、医師としての責任と覚悟を覚えました。

１月からは麻酔科を研修させていただき、早速先生方の熱いご指導をいただいております。研修生活も残り３か月弱となりましたが、残りの期間も勉強を継続し、日々医学に邁進していきたいと思います。この先まだまだご迷惑をおかけすることがあるとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

研修のご案内

第59回　症状・疾患別シリーズ（会員制）
［日本医師会生涯教育講座2.5単位認定］

日時▶平成28年２月13日(土)15：00～17：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長　魚返外科胃腸科医院 院長　魚返英寛

演題：「腹部腫瘤の鑑別診断」

１．産婦人科領域の腹部腫瘤	国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長	西村　弘
２．外科領域の腹部腫瘤	国立病院機構熊本医療センター外科医長	岩上志朗
３．泌尿器科領域の腹部腫瘤	国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長	陣内良映
４．腹部腫瘤の画像診断	髙田千年クリニック 院長	髙田千年　先生

この講座は有料で、年間10回を１シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、１回だけの参加を希望される場合は１回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局
TEL 096-353-6501（代表）内線2630　096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第205回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成28年２月15日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

１．内科基礎講座　診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
「第１症例　呼吸困難感の症例」　国立病院機構熊本医療センター神経内科　野村隼也
「第２症例　放射線腸炎によるイレウスの症例」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科　松野健司
２．ミニレクチャー「糖尿病の合併症について」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川武志

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長　清川 哲志　TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

第173回　三　木　会（無料）
（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］

日時▶平成28年２月18日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室２

１．「糖尿病性無痛性心筋虚血の特徴」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科　川上裕史
２．「糖尿病神経障害概論－糖尿病神経障害の多彩な症状」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川武志

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川 武志 TEL 096-353-6501（代表）内線5441

第144回　救急症例検討会

日時▶平成28年２月24日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ「頭部救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長　田北智裕
国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長　大塚忠弘

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等全職種が参加できます。多数のご参加を歓迎します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630　096-353-3515（直通）

2016年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

２月	研修センターホール	研　修　室
１日 (月)		
２日 (火)		
３日 (水)		
４日 (木)	７：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「薬剤部からのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター薬剤部長　中川義浩	
５日 (金)		
６日 (土)	14：00～16：00　第267回 熊本県滅菌消毒法講座 「感染対策に必要な消毒薬の知識　～手指、内視鏡、ノロウイルス～」	
８日 (月)		
９日 (火)		
10日 (水)		
12日 (金)		
13日 (土)	**15：00～17：30　第59回 症状・疾患別シリーズ** **「腹部腫瘤の鑑別診断」** **［日本医師会生涯教育講座2.5単位認定］** **座長　魚返外科胃腸科医院 院長　魚返英寛** **１．産婦人科領域の腹部腫瘤** **国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長　西村　弘** **２．外科領域の腹部腫瘤** **国立病院機構熊本医療センター外科医長　岩上志朗** **３．泌尿器科領域の腹部腫瘤** **国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長　陣内良映** **４．腹部腫瘤の画像診断** **髙田千年クリニック 院長　髙田千年　先生**	
15日 (月)	**19：00～20：30　第205回 月曜会（内科症例検討会）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］**	
16日 (火)		
17日 (水)	20：00～21：30　第71回　医歯連携セミナー 「認知症の最新治療」 国立病院機構菊池病院 院長　木村武実　先生	
18日 (木)	７：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「リスクマネジメントからのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター医療安全管理係長　髙尾珠江 14：00～15：00　第35回 市民公開講座 「ピロリ菌と胃がんについて」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長　中田成紀	**19：00～20：45　第173回 三木会（研２）** **（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］** **［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］**
19日 (金)		15：30～16：45　肝臓病教室（研２） 「脂肪肝とアルコール性肝障害」
22日 (月)		
23日 (火)	18：30～20：30　血液研究班月例会	19：00～21：00　小児科火曜会（研１）
24日 (水)	**18：30～20：00　第144回 救急症例検討会** **「頭部救急疾患」**	
25日 (木)	７：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「クレーム対応」 国立病院機構熊本医療センター医事専門職　森　貴史	19：00～21：00　熊本脳神経疾患懇話会（研２）
26日 (金)		
28日 (日)	８：30～17：00　熊本県臨床細胞学会学術集会・総会	
29日 (月)		

研１～３　２階研修室１～３

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ（http://www.nho-kumamoto.jp/）をご参照ください。

問い合わせ先　〒860-0008　熊本市中央区二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター２階　地域医療研修センター TEL 096-353-6501（代）内線2630　096-353-3515（直通）